

函館山の麓、西部地区がらまちづくりを考える

はこまち通信

クーポラ



はこまち通信が
リニューアル!



2019.1

vol. **47**



Contents

新春特集

世界を変えるSDGs…P2

[ゲスト] EPO北海道

大崎 美佳さん / 福田 あゆみさん

市民活動団体のご紹介

北海道自閉症協会道南分会

まちセンQ&A …P4

スタッフ連載ページ

『上へまいりま〜す!』…P5

リニューアルに伴うお知らせ

配布先・問い合わせ先 …P6

センター長 丸藤の

『今伝えたいこと』…P7

インフォメーション

…P8

お知らせ

3月18日(月)は
臨時休館日です。

【クーポラ】とは?



☼ 教会などの屋根上部に取り付けられた、半球系の構造物を指します。1923年に建てられた旧丸井今井呉服店函館支店をリノベーションし、2007年にオープンした函館市地域交流まちづくりセンター。その外観を印象づけるのが、正面玄関上部に設置された『クーポラ』です。

☼ このたび『はこまち通信』の大幅リニューアルを機に、より多くの方に、まちづくりセンターのシンボルともいえる『クーポラ』に親しみをもていただきたいと考え、名称を『はこまち通信 クーポラ』といたしました。

☼ ウェブサイトと連動しながら地域の役立つ情報を発信してまいります。引き続きご愛読のほどお願いいたします。

- まちづくりセンターで行われている講座案内や市民活動団体などの詳細は、ブログやホームページで公開中です。
- まちづくり、市民活動、各種助成金、移住・定住に関する問い合わせなど、お気軽にご相談ください。

発行 / 函館市地域交流まちづくりセンター

<http://hakomachi.com>



「誰一人取り残さない」世界を変えるSDGs

近年、SDGsというキーワードがひんぱんに使われてるのをご存知でしょうか。なぜ今、SDGsなのか。そもそもSDGsとは？まちづくりとはどう関わっているの？一足先に取り組んでいる道内の事例から、函館の未来のまちづくりを探ります。

【取材協力 EPO北海道】

SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは？

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標

2015年国連サミットにより採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核となる国際目標です。世界における環境・経済・社会に関わる課題を解決し、持続可能な未来をつくるため、世界全体で2030年の達成を目指す17のゴールと169のターゲットで構成されています。

環境省北海道環境パートナーシップオフィス (EPO北海道)

持続可能な社会づくりに向けた協働取組による課題解決等を支援する、北海道における中間支援拠点です。北海道地方ESD活動支援センターを設置しており、SDGsやESD(持続可能な開発のための教育)の推進に取り組んでいます。

EPO北海道 連絡先 E-mail : epoh-webadmin@epohok.jp
Web : <http://www.epohok.jp>

大崎 美佳さん



福田 あゆみさん



Q1 SDGsがすすんでいる道内の地域では、どのような取り組みが行われているのですか？

道内でいち早くSDGs達成へ動き出した団体に『RCE北海道道央圏（事務局は札幌・2015年12月発足）』があります。RCEとは、国連大学が認定する『ESDに関する地域拠点』です。

同団体は設立の検討を開始した2014年当初からSDGsに注目しており、設立にあたってEPO北海道も深く関わっている経緯があります。

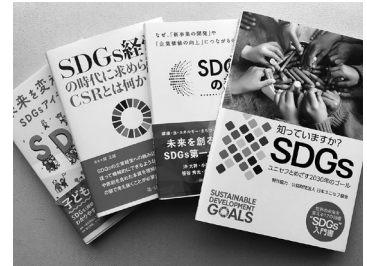
道内の自治体では北海道と、札幌市、ニセコ町、下川町の3都市が『SDGs未来都市』に選ばれています。これは日本政府が優れた取り組みを選定したもので、全国に29都市あります。

札幌市では、環境基本計画にSDGsへの視点を組み込んでいます。住民自治の下で持続可能な地域づくりを進めるニセコ町や、第1回ジャパンSDGs

アワードのSDGs推進本部長（内閣総理大臣）表彰を受けた下川町は、SDGsを踏まえた地域づくりの具体化を進めています。

また、北海道は2018年内に『(仮称)北海道SDGs推進ビジョン』の策定を予定しており、情報交換や連携・協働のための『北海道SDGs推進ネットワーク』を立ち上げ、市民や企業に参加を呼びかけています。

現在は、様々な市民団体がSDGsの学習会やイベント等を開催しており、EPO北海道もこれに協力しています。



関連書籍も続々出版

Q2 函館ではまだなじみがなく、そもそもSDGsとは？という方も多いのが現状です。これから本格的にSDGsに取り組んでいくために、何が必要でしょうか。

カラフルなロゴはSDGsの特徴のひとつ。これを目にする機会を多くつくるのが有効です。また、SDGsは私たちの生活と深く結び付いています。環境・社会・経済のつながり、自分と世界、未来のつながりに関する気づきは、活動の大きな推進力になります。（一社）イマココラボ（東京都）が開発したカードゲーム【2030 SDGs】等でも、自分と世界のつながりを体感することができます。

Q3 SDGsを推進する上で欠かせない役割とは？

市民団体や自治体だけではなく、企業、特に大企業でも活動が活発化しています。2018年10月には札幌で、北海道経済連合会の主催によるSDGs普及啓発セミナーが行われ、企業や自治体から多くの参加がありました。

このように多様な主体による多様な動きがある中で、SDGsの『我々の世界を変革する』理念を実現するためには、目標17で掲げられている「パートナーシップ」が不可欠です。SDGs達成を目指して地域の持続可能性を高め、異なる分野や立場を橋渡しし、連携・協働を促す【コーディネーター】の役割の重要性が増しています。



【おわりに】

SDGsが目指す理念や、道内の都市の事例を知れば知るほど、よりよい地域社会を目指すためにSDGsがますます必要となるであろうことを痛感しています。

2019年、函館市地域交流まちづくりセンターはSDGsの啓発と推進に力をいれてまいります。

企業や自治体、教育機関や市民活動団体など、あらゆる分野や立場の人々と手を携え、函館の未来を見据えた活動に取り組みます。



市民活動団体のご紹介

会員募集中！
共に活動してみたい方は
気軽に各団体
お問い合わせください。

活動 団体

～自閉症の当事者と家族の幸せと充実した人生を目指して～
北海道自閉症協会道南分会

当会は函館・道南一帯で自閉症児・者を育てている親の会です。

正会員は一般社団法人日本自閉症協会・北海道自閉症協会・道南分会の会員として登録されます。地域で子どもたちを育てていくには、皆さま方のご理解とご協力が必要です。少しでも多くの方々に理解を深めていただきたく活動しております。

主な活動は月に一度開催のサロンなど。親のニーズに合わせた学びの場も提供しており、昨秋は「医療従事者と保護者のための自閉症スペクトラム研修会」を開催。多くの方にご参加いただきました。



研修会は、保護者の学びと地域の理解、双方の役割を担っています。

●北海道自閉症協会道南分会

代表／平清水 美奈 会員数／102名(うち正会員72名)

電話／090-9430-1348(10:00～16:00)

Web／<http://www.asj-dounan.org>

加入条件／保護者、又は会の趣旨に賛同くださる個人及び団体

団体設立のきっかけや
活動内容などの詳細は
まちセンHPで



<http://hakomachi.com>

まちセンQ&A

Q1 施設の申し込みはいつから？

◆多目的ホール **6**ヶ月前から

◆研修室・会議室 **3**ヶ月前から

該当月の初日から受付を開始します。

(※例 2/1より8月使用の多目的ホール、

5月使用の研修室・会議室の申込開始)。

営利目的で使用する場合は割増料金となります。

詳しくはお問い合わせください。



Q2 駐車料金は？

施設をご利用の方は**2**時間まで無料

超過**30分**ごとに**100円**

駐車時間が2時間を超える見込みのある方は
車のキーをお預けください。

●料金の一例

2時間30分までは100円、

3時間までは200円となります。

詳しくはお問合せください。



『函館パワースポット(パワスポ)計画』

●今回は、私がまちセンで「こんなことに挑戦したい!」と思っていることを少しだけ紹介します。

茅森の『まちセン発、函館パワスポ計画!』

【その1】コンセプト型シェアハウスの展開

西部エリアの空き家等を活用し、その人が持つ強みを活かせる場所(多世代交流、子どもたちの教育の場、共用の花壇や菜園を行う場等)を増やしたい。他の地域のモデルケースを踏まえて、函館ならではのスタイルを提案したいと考えています。

【その2】シニア世代の方がオシャレして集う場を レイトナイトショー!

まちセンで、いにしへの映画上映はどうでしょう?
思い思いにオシャレをしてクラシックな建物に集う…

自宅でのDVD鑑賞とは一味違う、オトナで素敵なひとときをまちセンで過ごしていただけたら。

この企画は、私がよく立ち寄る西部地区のカフェ店主との会話からひらめいたものです。多目的ホールは映画上映が可能なので、何とか実現できればと思っています。

他にも『緑地化計画』『フォトウエディング計画』など、まちセンでチャレンジしてみたいことがたくさんあります。若い世代がまちセンに来たくなるような工夫もしていきたいです。「こんなことをしてほしい!」など、みなさんの声をお寄せください。もちろん、函館オススメスポットのお問い合わせから相談事まで、どんなことでもお気軽に。いつでもウェルカムですヨ。

それでは今日も「上へまいりま〜す!」

茅森の【まちセン萌えスポット】 『函館洋家具復元プロジェクト』 から生まれた複製の飾り棚

2011年、函館工業高校建築科のみなさんが協力企業と共に手がけたもので、オリジナルは旧函館区公会堂(休館中)所蔵です。

函館洋家具の意匠と伝統工法をひも解き、3年がかりで完成した飾り棚。まちセンで初めて触れたとき、その重厚さに圧倒されました。

みなさんにもぜひ触れていただき、函館の古き良き歴史と、職人の心意気を感じ取ってほしい…そんな萌えスポットなのです。



昨秋、2日間限定でゴージャスな空間に生まれ変わった飾り棚。

かやもり しょうき
茅森 昇起

海の日生まれ26歳。
福祉の仕事から2018年4月より
まちセンスタッフに。
特技はイラスト、
消しゴムはんこ製作など。



1F 喫茶コーナー cafe DripDrop

- 営業時間/10:00~18:00 ●定休日/水曜日・施設休館日
- 自家焙煎、ハンドドリップのコーヒーで一息つきませんか?
お店のSNSで最新情報を発信しますので、
お得な情報をゲットしてみてください。

☞【オススメ】ブレンドコーヒー 330円

1F 福祉の店 どんぐり 2号店

- 営業時間/10:00~16:00 ●定休日/土日祝日・施設休館日
- 授産製品を扱っています。函館みやげにオススメのクッキーをはじめ、布バッグや布ぞうりなどのハンドメイド雑貨も豊富です。

☞【オススメ】土偶クッキー 680円





はこまち通信リニューアルに伴うお知らせ

●連載「気づけば函館市民になっていた」は、前号vol.46が最終回となりました。長きに渡ってご協力くださった大西剛さんには、この場を借りて心より感謝申し上げます。

過去の連載記事は全てHP「はこまち通信」カテゴリに掲載します。また、5年以上に渡ってご愛読くださったみなさまへのご挨拶としまして、大西さんより原稿を頂戴しました。近日中にHPにて公開いたしますので、どうぞお楽しみに。

<http://hakomachi.com>



●移住者の紹介ページも前号vol.46が最終回となりました。過去の取材記事は全てまちづくりセンターHP内の「移住サポートセンター」カテゴリにて掲載します。

●表紙を含む一部のページがカラーとなりました。また、従来の右とじから左とじとなり、誌面レイアウトも一新いたしました。

●まちセンで行われる講座案内のページが独立いたしました。ご希望の方は1階インフォメーションにてお渡しいたします。HPでもご紹介しております。

配布先・問い合わせ先

『はこまち通信クーポラ』2019年1月 vol.47
次号は3月31日発行予定です（年4回）

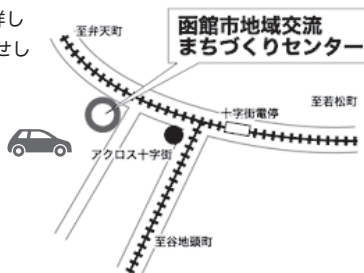
発行／函館市地域交流まちづくりセンター
住所／〒040-0053 北海道函館市末広町4-19
TEL／0138-22-9700
FAX／0138-22-9800
開館／9:00～21:00
休館日／12月31日～1月3日、3月18日
<http://hakomachi.com>



このほか器材点検のため月1回程度、臨時休館する場合があります。詳しくはセンター内やWebでお知らせしています。

建物裏手に駐車場あり。
2時間まで無料。

指定管理者／
NPOサポートはこだてグループ
(2007年4月～)



『はこまち通信クーポラ』編集室だより

本年もよろしくお祈りします。

平成が終わり、新しい年号に変わります。社会が大きく変わる一年になりそうです。変化のある年にふさわしく、はこまち通信もリニューアルしお楽しみに!

(編集長／谷口真貴)

●主な配布先(敬称略)

函館市役所1F／亀田支所／湯川支所／銭亀沢支所／戸井支所／恵山支所／榎法華支所／南茅部支所／函館市中央図書館／渡島総合振興局／函館市企業局アクロス十字街／総合保健センター／函館アリーナ／函館市女性センター／函館市青年センター／函館市公民館／函館コミュニティプラザGスクエア／函館市青少年研修センターふるる函館／中島れんばいふれあいセンター／函館市総合福祉センターあいよる21／函館市勤労者総合福祉センターサンリフレ函館／はこだて子どもセンター／取材に協力くださったみなさま、施設等

『はこまち通信クーポラ』に関するご意見、ご感想をお寄せください。ご住所、お名前、お電話番号を明記の上、メール info@hakomachi.com まで





センター長 丸藤の「今 伝えたいこと」

最近、直径2.5センチくらいのドーナツ型のカラフルなバッジを着けている方を目にします。ビル・ゲイツも経団連会長も、スーツに17色のドーナツバッジが輝いています。このバッジ、SDGsの17の目標を表したもので、国連ショップ等で販売しています。SDGsの理念を広めたいと、まちづくりセンタースタッフも着けています。

SDGsで取り上げている17の目標や169のターゲットは、誰かが犠牲になったり取り残されたりするのではなく、世界のあらゆる人たちが自分らしく生き続けていける世界になるため達成しなくてはいけないものです。ただそれだけに、実現には困難なことが多いのも事実です。

しかしSDGsを知り、各々ができることを実践し広めていけば力になります。楽しみながら未来を変えていこうというユニークな活動がたくさん生まれています。企業価値の向上のためにも、SDGsを取り入れることが欠かせない時代になっています。SDGsは、どんな方でも関わることのできる取り組みです。ぜひあなたも行動に移してみてください。世界は良くなっていきますよ！

最後に、『はこまち通信』は今号からリニューアルしました。これからも、よろしくお願いいたします！



SDGsについては今号P2～3の新春特集でもふれています。

丸藤 競 ラジオ情報

80.7MHz

函館のコミュニティラジオFMいるか

『週刊まち日和』

パーソナリティ

毎週土曜 12:30～13:00

(インターネットでも視聴可)





まちセンインフォメーション

11/13
(火)

まちセン茶論 (サロン) 番外編



移住者の交流の場として開いている「まちセン茶論」。この日は船見町のカフェを訪問。日本茶を飲みながら楽しいひと時を過ごしました。

11/9
(金)

突然死ゼロを目指して 救命講習会



月に一度、AEDの使い方などを学ぶ無料の講習会です。参加者には修了証をお渡ししています。今後も毎月開催予定です。ご参加をお待ちしております。
※次回は1月15日(火)です。

11/6
(月)
11/7
(火)

NPOの基盤強化を本気で考える2日間!

東京、札幌から専門の講師を招いて解説。市民活動・まちづくりに興味をお持ちの方が即実践できる内容でした。



まちセンスタッフも参加しました。

さわってナットク! ダンボールグッズ

身近なダンボールや新聞を使い「アイデアや工夫次第で避難生活は変えられる」ことを形にしました。アンケートも多数寄せられ、反響の大きさを実感しました。

アンケート集計結果はコチラ▼



11/15
から
11/30
まで



10/11
から
12/25
まで

防災と備蓄を考える展示会



昨年9月の地震・停電を機に、まちセンでは防災情報の発信・提供に力を入れています。第一弾としまして、三和防災・無印良品 シエスタハコダテのみなさまのご協力の下、停電時でも使えるライトや防災グッズの展示を実施しました。



スタッフの意識も高まりました。市内各所で実施されている研修や講演会にも積極的に参加するなど、それぞれが防災に関する知識を深めています。地域のみなさまが安心して暮らすために何ができるのか。これからも**情報発信**と**知識の習得**を続けてまいります。

